Fenestra

京大西洋史学報

第 5 号（2021 年 4 月）

京都大学大学院文学研究科
西洋史研究室

フェネストラ

京大西洋史学報

第 5 号　目次

論説
櫻井　康人
「ベザント」考 ..... - 1 -
堀内　隆行
警察と国家モデルのグローバル・ヒストリー ..... - 13 -
動向・紹介
中辻　柚珠
ナショナル・アイデンティティの歴史と方法論的ナショナリズム
――新たな方法論の構築に向けた一考察―― ..... - 18 -
石原　香
Jenifer Popiel, Mark C. Carnes and Gary Kates,
***Rousseau, Burke, and Revolution in France, 1791* (Second Edition)** ..... - 23 -
中山　真由香
大津留厚編『「民族自決」という幻影
――ハプスブルク帝国の崩壊と新生諸国家の成立――』 ..... - 26 -
西洋史研究室の現在
時代別演習と専任教員の講義 ..... - 28 -
新任教員の紹介 ..... - 34 -
大学院生の研究 ..... - 36 -
編集後記 ..... - 47 -

《表紙解説》ウィリアム・シェイクスピアの妻アン・ハサウェイの生家の窓(イギリス)

16・17 世紀イングランドを代表する劇作家ウィリアム・シェイクスピアとその妻アン・ハサウェイは共にストラットフォード・アポン・エイヴォンで生まれ育った。アンの生家は数世紀にわたって住みやすいよう増築、改築が繰り返され、16 世紀から 18 世紀頃までの建築の特徴を見ることができる。また、早い時期から観光地化されていたため、18 世紀頃に観光客によって窓に刻まれた落書きなども見ることができる。周辺にはシェイクスピア自身の生家やその他ゆかりの建築物や博物館もあり、演劇も盛んに上演されている。

編集後記

昨年度の第 4 号に引き続き、今号もコロナ禍にあってオンラインでの編集を余儀なくされました（石原香さん、岡本幹生さん、新田さな子さんに作業を行っていただきました）。とはいえ、この一年の経験で、対面せずに物事を進めることに対する心理的ハードルは劇的に下がったように感じられます。前号の編集後記には「数年後には当たり前になっている風景かもしれません」と書きましたが、数年後どころかわずか一年で「当たり前」になりつつあります。

さて、今号には二本の論説が掲載されています。期せずして、ともに西欧中心主義的でも目的論的でもない、ひじょうに興味深い伝播モデルを、具体的な歴史事象（貨幣、生体認証）に基づいて提唱しておられます。コントロールし難いウイルスに翻弄されている現在に生きる私たちに響く内容です。動向・紹介欄にも同様に、多くの方々のご関心を引くにちがいない情報が詰まっています。ご味読いただけましたら幸いです。

最後に、2021 年 3 月末日をもって、南川高志教授が定年退職されました。長年にわたる京大での教育研究へのご尽力に対して心から感謝申し上げます。4 月からは後任の藤井崇准教授とともに、3 人で力を合わせて教育研究に専心していく所存です。

（金澤）

2021 年 4 月 30 日発行　非売品

『フェネストラ――京大西洋史学報――』（第 5 号）
発行者　京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科西洋史研究室
電話　075-753-2791